

ハンドボールの第13回八重瀬町杯争奪第38回県中学校秋季大会最終日は2日、八重瀬町の具志頭社会体育館で男女の決勝を行い、男子は神森が35-25で港川を制して5年連続14回目の栄冠に輝いた。女子は仲西が31-14で美東を圧倒し、2年連続10回目の頂点に立った。第3シード決定戦は男子は仲西が浦西に勝利し、女子は神森が南風原を下した。

神森、男子V5

県中学秋季ハンド 女子は仲西連覇



男子決勝 神森-港川 後半、守備をかわしてシュートを決める神森の田場心大(2日)、八重瀬町の具志頭社会体育館(大城直也撮影)

要所の関係、実力示す

14度目優勝の神森

3年生の全国2冠で本格的な練習期間が短かった神森の新チームだったが、4-2守備で港川の攻撃を着実に抑えた。攻撃の「きっかけをつくるパターンは一つのみ」(友利彬彦監督)と話すものの、状況に合わせた連携プレーで力の差を見せつけた。

初戦の沖繩東、準決勝の浦西を接戦で乗り越え、調子上がった状態でこの日の決勝を迎えた。主将の東江慶が負傷でベンチに下がるなか、田場心大を中心に攻撃は左右に振る素早い展開で、右45度の本永光やポスト外間大心が点を重ねた。宮里海凜はパスカットからの速攻を決め、流れを一気に引き寄せ、序盤から港川を引き離した。

ハイライト

後半は横一戦守備に変えた港川が盛り返したが、田場の「今日は良く決まった」ロングシュートや守備をうまくずらしたサイドシュートで点を広げた。洲鎌史成と吉野泰基ら勢いのある1年の奮闘も光った。

新チームとして最先良いスタートだが、田場は先輩らの偉業に「重圧を感じる」とはにかむ。友利監督は「課題は多いが今後、体を大きくしていくことから始める。今季は他チームも強く激戦が予想されると気を引き締める。東江は「優勝は先輩が練習に付き合ってくれたおかげ。これから全ての大会で連覇が懸かる。一つも落とさないようにしたい」と気合を入れた。(嘉陽拓也)

女子決勝 仲西-美東 前半、中央を攻めてシュートを決める仲西の田里優生子

神森	35	1718	169	25	港川	川仲	西	31	1417	9	14	美東
仲西	25	1411	712	19	浦西	西神	森	32	1715	5	12	南風原
△決勝					△決勝							
▽3位決定戦					▽3位決定戦							

女子仲西、群抜く強さ



女子決勝は、仲西が開始早々から8連続得点で美東を17-5と大差をつけた。選手を入れ替え始めた後半は右サイドの仲西純が速攻のみならず、主将の田里点を稼ぐ。1年の小浜葵菜は「皆のプレーがうまくつなげられた」と満足した様子で振り返る。「全国や九州大会で通用する攻撃の速さを追求していきたい」と今後の大舞台での活躍を目指し、力強く語った。(嘉陽拓也)

リカルム

浦城小時代に全国制覇を成し遂げた2年の田里優生子と大田有紗らが守備の柱となり、全員で素早いプレスをかけ、美東の攻撃を単発な展開で持ち込んだ。先を讀んだ砂川彩羽のパスカットのほか、GK仲西香翔が好セーブ的確なロングパスで池間末之や比嘉柚葉



5年連続14回目の頂点に立った男子神森



2年連続10回目の優勝を果たした女子仲西